

第4学年 総合的な学習の時間指導案

1. 単元名「あたたかいまちJ町」(30時間)

2. 児童の実態

- アンケートの結果から、子どもたちは、J町は「やさしいまち」であると感じている児童がほとんどである。豊かな自然に恵まれ、掃除をしてくれる人や挨拶をしてくれる人がいるということが、J町のよさだと捉えているようである。また、その中でも、自分たちの学習に関わってくださる地域の方々がいることも、校区のよさとして捉え始めている。しかし、それは自分にとってのJ町のよさであり、いろいろな立場に立って考えるまでには至っていない。また、障がいのある人と話したり、活動をともしたりする経験が少ない。
- 総合学習1学期単元の「環境について考えよう」の学習では、いくつかの課題の中から自分の興味関心にもとづいて、選んで決めた。追究の段階では、ごみの現状や様々なリサイクル方法を調べる中で、自分から進んで人と関わり、一緒に体験活動をしたり、インタビューをしたりすることができていた。しかし、調べたことについて、自分の考えの根拠を明らかにしながら、分かりやすく伝える方法を生かしていない。

3. 単元目標

- J町のバリアフリー(もの・人)について関心をもち、意欲的に追究しようとするができる。
- 課題を決め、自分が調べたことを分かりやすく表現したり、友達の考えと比較したりして問題を解決することができる。
- アイマスク・車いすなどの体験活動や障がいのある人へのインタビューで学んだことをもとに、相手の立場に立って声をかけることが大切であるという見方・考え方・感じ方をもつことができる。

4. 教材観

児童を取り巻く社会には、様々な人が生活している。小学生はもちろん、赤ちゃんから、大人、お年寄りまで幅広い人がいる。自分のことだけでなく、周りの人にも関心をもち始めたこの時期に、障がいのある方とふれ合う体験は、他人を思う心や他人の痛みを感じる心など、共に生きるための豊かな人間性や社会性を培うことができる大切な学習だと考える。また、同じ校区で生活されている障がいのある人に出会わせることは、障がいのある人をより身近に感じることができる。その身近に感じた人の立場に立ち、実際に自分の目でまちを見ることによって、J町にはいろいろなバリアやバリアフリーがあることに気付く。さらに、施設面の改善だけでなく、自分たちが困っている人に声をかけるなど、自分たちにできることでかかわっていきこうという見方・考え方・感じ方を広げ、よりよい人とかかわり方を児童に育てる上で意義深い。

5. 方法観(指導の手立て)

福祉の学習においては、障がいのある人の立場が実感できる体験や、児童一人一人の心に響くふれ合いが重要であると考え。そのために、次の二つのことを取り入れた。

ア 体験的学習を行わせる

障がいによる不便さ、困難さを実感することができるように、キャップハンディ体験をした。さらに、体験活動を振り返り、感想を交流することによって、障がいのある人に、実際の生活の様子や思いなど、もっと聞いてみたいと意欲をもつことができるようにした。

イ 各段階で障がいのある人と交流する

「課題をつかむ段階」では、実際にどんな生活をしておられるか、質問したことに答えていただく中で、外国旅行の趣味や日本代表での思い出などを話してもらい、「不便なことはあるけど、自分の努力や周りの協力で、前向きに明るく楽しんで暮している」ということに気付くことができるようにした。さらに、「J町のまちは障がいのある人にとってやさしいまちでしょうか。」という投げかけから課題の方向性をつかませた。

「課題を追究する段階」では、心のバリアフリーについて自分たちの考えたことを尋ねたり、聞いてもらったりした。それに対して、話してもらった感想の中から、介助するだけでなく、自分や周りの人は何ができるのかということを考えることができるようにした。

「課題を生かす段階」では、これまでの学習から考えたこれからの自分のかかわり方を聞いてもらい、肯定的に評価をもらうことで、活動の満足感を味わうことができるようにした。

○ 単元の全体計画 (全30時間)

主な活動と内容	教師のかかわり	時数
<p>1. 国語の学習を振り返り、障がいのある人に役立つものについて関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字の仕組み ・障がいのある人に役立つもの 	<p>○点字の仕組みや活用について振り返らせたり、車いすなど実物にふれさせたりすることで、実際にどれくらい役に立つのか、不便なのか体験してみたいという意識を促す。</p>	1
<p>2. キャップハンディ体験を通して、障がいのある人々の立場を実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす ・アイマスク ・点字 	<p>○ 障がいによる不便さを実感できるように、校内で直接体験の場を設ける。</p>	3
<p>3. GTの話から思いや願いを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I さん (J 町校区在住) ・ S さん (博多工業高校職員) <p>「J 町は、人にやさしいまちである。」</p> <p>↓</p> <p>「障がいのある人の立場では、どうなのか？」</p>	<p>○外国旅行の趣味や日本代表での思い出を話してもらい、「不便なことはあるけど、明るく前向きで生き生きしている」ということをつかませたい。</p> <p>○自分たちのまちのバリアフリーはどうかという考えを方向付ける話をしていただき、これまでに子どもたちの考えをGTの話で揺さぶり、疑問を持つようにする。</p>	2
<p>4. GTの話を振り返り学習課題をつかむ。</p> <p>(1) GTの話をもとに話し合い、学習のめあてをつかむ。</p> <p><学習のめあて></p>		2 ①
<p>J町のバリアフリーについて調べよう。</p>		
<p>(2) 興味・関心にそって自分の課題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J 市民センター ・ J 町公民館 ・ スーパー北 J 町店 ・ 周辺道路 	<p>○網羅的に調べるのではなく、生活にかかわりの深い場所、多くの人に利用されている場所に焦点をあてる。</p>	①
<p>5. 課題に沿ってグループに分かれ調べる。</p> <p>(1) 課題ごとのグループで調べる計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何のために・いつ・どこで・どのように <p>(2) 課題に沿って調べる。</p> <p>(3) 調べた内容や方法を見直し、再度調べる内容と方法を考える。</p> <p>(4) 再度課題に沿って調べる。</p> <p>(5) 調べたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科でどのようにまとめているか話し合う 	<p>○キャップハンディ体験のときに感じたバリアを想起させながら、バリアフリーとバリアを調べるようにする。</p> <p>○見学調査が不十分な点については何度も見学調査をするように促す。</p> <p>○もののバリアが多いと考えられる場所は、そこで働く人にインタビューさせ、人のかかわりによってバリアフリーにしていることに気付かせる。</p> <p>※社会科での「地図」「写真」「聞き取り」等の資料を「小見出し」「簡潔な説明」とつなげてまとめて表現する方法をかかしてまとめるようにする。</p>	10 ① ② ① ③ ③
<p>6. 調べたことをもとに<学習のめあて>について話し合う。</p> <p>(1) 同質グループで調べたことや考えたことについて話し合い、発表者を決め表現物を作る</p> <p>(2) グループごとに発表し、それぞれの調べたことについて話し合う。</p>	<p>※グループの中で、各自のまとめ方のよさを取り入れたり、応用したりするようにさせる。</p> <p>※聞き手に分かりやすいように、「調べる前の考え(予想)」「調べてきた事実」「その事実から思ったこと・考えたこと」を明確にしながら発表を行うようにする。</p>	5 ② ③
<p>7. 「心のバリアフリー」という言葉を知り、言葉の意味を考える。</p> <p>(1) 「心のバリアフリー」という言葉の意味を考え、実際はどうかははっきりさせたいという意欲をもつ。</p> <p>(2) 自分たちの考えた「心のバリアフリー」について、GTにインタビューして確かめる。</p> <p>(3) GTの話から、「これまでの自分の心のバリアフリー」について振り返る。</p>	<p>○グループごとの発表をもとに、バリアがバリアでなくなるとき、バリアフリーがバリアフリーでなくなるときを考えさせることによって、人の意識がバリアにかかわっていることに、気付くようにする。</p> <p>○子どもたちの発表を聞いた後の感想だけでなく、さらに考えが深まるように、GTの体験談を話していただく。</p> <p>○学習する前の自分の障がいのある人に対する見方、考え方と、今の見方・考え方を比べさせ、自分の考えの変容に気付くようにする。</p>	3 ① ①
<p>8. 身近な人や地域の人に自分の考えを広める。</p> <p>9. これまでの活動をもとに、自分の考えの変容について振り返る。</p>	<p>※社会科とのつながりがどうだったかという視点で振り返らせる。</p>	3 1